

2019 鈴鹿・近畿選手権シリーズ第3戦 鈴鹿サンデーロードレース RACE REPORT

■開催概要

- シリーズ名称 : MFJ公認・承認 2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第3戦 鈴鹿サンデーロードレース
- 主催 : 株式会社 モビリティランド 鈴鹿サーキット
- 会場 : 鈴鹿サーキット国際レーシングコース・東コース(2輪/2.243km)
- 参加台数 : 総参加台数/194台
 - インターJP250 2台
 - ナショナルJP250 19台
 - ナショナルJSB1000 27台
 - CBR250R Dream Cupエキスパートクラス 21台
 - インターST600 7台
 - ナショナルST600 23台
 - CBR250RR Dream Cup 20台
 - インターJSB1000 24台
 - ST600R(Revival) 29台
 - インターJ-GP3 4台
 - ナショナルJ-GP3 18台(内、NSF250R 10台)
- 開催日 : 2019年7月14日(日)
- 天候/路面 : 曇り/ウェット

★次回レース予定

2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦 鈴鹿サンデーロードレース

■開催日/2019年9月22日(日)

■会場/鈴鹿サーキット国際レーシングコース・東コース(2輪/2.243km)

■開催クラス/ インター・ナショナル/ JSB1000・ST600・J-GP3・JP250

ST600R(Revival)、CBR250R Dream Cupエキスパートクラス、CBR250RR Dream Cup

■主催/株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット

★レースリザルトは、インターネットでご覧いただけます。

リザルトページ https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

★レース写真は、バトルファクトリー様のHPでご購入いただけます。

バトルファクトリーHP <https://www.battle.co.jp/>



路面が変化し続ける難しいコンディション。 下克上のような予選から接戦の決勝まで 大いに盛り上がった鈴鹿サンデー第3戦。

2週間後に鈴鹿8耐を控えた鈴鹿サーキットの東コースを舞台に鈴鹿サンデーロードレースの今シーズン第3戦が開催された。前戦の第2戦は2DAYレースとして開催され、「インターJP250」と「ナショナルJP250」の混走による4時間耐久レースや鈴鹿8耐への参戦チームを選抜する「8耐トライアウトFINALステージ」が併催されたことで注目を集めたが、今回は通常のサンデーのタイムスケジュールに戻り、幾分落ち着いた雰囲気の中でのレースになるかと想像された。

しかし、当日は公式予選がはじまる頃まで雨が降っており、路面も当然ウェットのまま。そんな中行われた予選ではいつもの上位ランカーとは違うライダーが好タイムをマークし、上位グリッドを獲得するシーンが見られた。路面コンディションは徐々に回復し、決勝レースがはじまる頃には完全ドライに。しかし、決勝レースの途中で再び雨が降ってくるカテゴリーも。いつも上位を走るライダーが激しい巻き返しを強いられる一日になった。

第2戦の「JP250」4耐では片山千彩都／笠井杏樹組が鈴鹿サーキットでの耐久レースで史上初めて女性ライダーペアによるポールシッターとなり、決勝レースでも総合優勝を飾った。今回も片山がインター／ナショナルJP250の混走レースで2番グリッドを獲得。決勝でもその片山、石井千優、桐石世奈など、女性ライダーの活躍が目立った。女性ライダーに加えて若手ライダーも多く参戦している「JP250」のほか、「J-GP3」も若手ライダーの参戦が目立つ。今回はインタークラスとナショナルクラスを合わせて10名のティーンエイジャーがエントリー。伊藤元治(19歳)、古里太陽(14歳)らがひと時も目を離せない激しいバトルを披露した。

今回の第3戦は今シーズン前半の最後のレース。7月27日(土)には鈴鹿4耐<ST600>、その翌日28日(日)には鈴鹿8耐、9月8日(日)には鈴鹿Mini-Moto4耐がそれぞれ行われると、いよいよ鈴鹿サーキットにも秋が訪れ、シリーズ後半戦を迎えることとなる。さわやかな秋風が吹くであろう9月22日(日)に開催される第4戦にも是非注目していただきたい。



ナショナルJP250で開幕3連勝を飾った片山千彩都選手(左)とGOSHI Racingロードレース部門監督の永田郁晴さん(右)

■インター／ナショナルJP250

ポールポジションスタートの小野雅治が良いクラッチミートを披露するが、ホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの南博之。それに小野、2番グリッドスタートの片山千彩都と続く。トップでオープニングラップを帰ってきたのは小野。2周目に小野と南が激しく順位を入れ替える。南をパスした片山は小野をもパスしてトップに。片山と小野の2台が南以降を若干引き離してトップグループを形成する。5周目になると片山が単独トップに。その後も片山は小野以降を引き離し続ける。結局、その片山がトップチェッカーを受けると同時にナショナルJP250のウィナーに。総合3位の石井千優がインターJP250を制した。



インターJP250表彰式 (優勝:石井千優)



ナショナルJP250表彰式 (優勝:片山千彩都、2位:小野雅治、3位:南博之)

■ナショナルJSB1000

5番グリッドスタートの花村峻一がホールショットをゲット。その花村と7番グリッドスタートの中尾泰三が横並びの状態オープニングラップの最終コーナーを立ち上がってくる。花村をパスした中尾はすぐに単独トップに。その後方で花村、持永彰仁、香川純、沖永博一らがテールtoノーズのバトルを展開する間も中尾は危なげない走りでもリードを広げ続ける。香川が持永と花村を立て続けにパスして2位に。池主永も持永をパスする。香川は一気に中尾の背後に接近すると13周目の1コーナーでこれをパス。その香川の背後に喜田優人が接近するが、ファイナルラップの最終コーナーで喜田が転倒。香川が今シーズン初優勝を決めた。



ナショナルJSB1000表彰式 (優勝:香川純、2位:花村峻一、3位:中尾泰三)

■CBR250R Dream Cupエキスパートクラス

ポールポジションスタートの神吉圭史郎と2列目4番グリッドスタートの藤村太磯が良いクラッチミートを披露。ホールショットを奪ったのは藤村。その藤村、5番グリッドスタートの高木誠、神吉のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。2周目に高木が藤村をパスしてトップに。高木、藤村、神吉がトップグループを形成。そこから若干離れて上江洲葵要、中川涼、藤城清太郎らが4位の座を争う。3周目に高木が転倒。4位グループが再びトップグループに接近すると、その後も神吉を先頭とする7台がトップ争いを展開。神吉が単独トップになりかけるが、集団に飲み込まれる。しかし、その神吉がポールtoウィンを飾る結果となった。



CBR250R Dream Cupエキスパートクラス表彰式 (優勝: 神吉圭史郎、2位: 上江洲葵要、3位: 藤村太磯)

■CBR250RR Dream Cup

2番グリッドスタートの梶山采千夏が良いクラッチミートを披露すると、そのままホールショットをゲット。それに4番グリッドスタートの羽山成親が続く。梶山、6番グリッドスタートの三浦雄一、羽山のオーダーでオープニングラップを終了。梶山はその時点で三浦以降に1秒728のアドバンテージを築くことに成功する。梶山が独走状態になるかと思われたが、3周目に三浦が梶山のテールを捕らえると一気にパスしてトップに。三浦から少し離れて梶山が2位を走る。ペースが落ちた梶山をポールポジションスタートの森真が8周目の1コーナーでパス。その後も森と梶山はバトルを続ける。結局、三浦が優勝。2位争いを制したのは森だった。



CBR250RR Dream Cup表彰式 (優勝: 三浦雄一、2位: 森真、3位: 梶山采千夏)

■インターJSB1000

ポールポジションスタートの田尻悠人がホールショットを奪う。3番グリッドスタートの宮腰武、2番グリッドスタートの松本隆征が田尻に続いてオープニングラップを終了するが、3周目に転倒したマシンがあった影響で赤旗が出される。リスタート後は田尻、福山京太、松本のオーダーに。レインタイヤをチョイスした松本がどんどん順位を落としていく。徐々に田尻が単独トップに。福山、岩谷圭太も単独2位、単独3位となる。5周目になると福山の背後に岩谷と西村一之が接近。8周目の1コーナーで西村と岩谷が福山をパスする。後続を引き離し続けた田尻が3秒234のリードを築いてトップチェッカー。それに西村、岩谷と続いた。



インターJSB1000表彰式 (優勝: 田尻悠人、2位: 西村一之、3位: 岩谷圭太)

■インター／ナショナルST600

ホールショットを奪ったのはポールポジションスタートの綿貫舞空。それに4番グリッドスタートの松永修、4列目10番グリッドスタートの増田雄基と続く。そのオーダーのままオープニングラップを終了するが、6番グリッドスタートの川名拳豊が2周目に増田と松永をパスして2位に浮上。増田と村瀬豊が松永をパスする。綿貫、川名は単独トップ、単独2位に。綿貫はその後も川名以降を引き離し続ける。レース中盤になると川名が一気にポジションを落とす。結局、綿貫が一度もトップの座を明け渡すことなくトップチェッカーを受け、ナショナルST600のウィナーに。インターST600を制したのは総合3位の村瀬だった。



インターST600表彰式 (優勝:村瀬豊、2位:松永修、3位:澤村俊紀)



ナショナルST600表彰式 (優勝:綿貫舞空、2位:増田雄基、3位:川名拳豊)

■ST600R (Revival)

ポールポジションスタートの前迫祥平、2番グリッドスタートの河田陽一のオーダーで1コーナーへ。前迫、3番グリッドスタートの岸本修、河田のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。前迫はオープニングラップ終了時点で岸本以降に1秒452のアドバンテージを築くことに成功。その前迫の後方で岸本と河田がテールtoノーズのバトルを展開する。そこに谷村尚彦が接近していく。2位グループは3台での争いになりかけるが、6周目の最終コーナーで河田が転倒。これによって有利な展開になった岸本に再び谷村が接近するが、パスするには至らない。結局、前迫がポールtoウィン。2位は岸本、谷村が3位表彰台に立つ結果となった。



ST600R (Revival) 表彰式 (優勝:前迫祥平、2位:岸本修、3位:谷村尚彦)

■インター／ナショナルJ-GP3／
HRC NSF250R Challenge

ポールポジションスタートの酒井隆嗣がスタートで出遅れる。オープニングラップをトップで帰ってきたのは5番グリッドスタートの伊藤元治。それに2番グリッドスタートの羽根巧、3番グリッドスタートの古里太陽と続く。伊藤、古里、酒井、羽根の4台がトップグループを形成。そこから羽根が若干遅れると、古里と酒井が激しいバトルを展開する。2位を走る酒井が8周目にコースアウト。これにより、トップグループは古里と伊藤の争いに。その後も古里と伊藤は周回ごとに順位を入れ替える。伊藤が初優勝を飾ると同時にナショナルJ-GP3のウィナーに。総合5位の羽根がインターJ-GP3を制した。



インターJ-GP3表彰式 (優勝:羽根巧、2位:川瀬啓一郎)



ナショナルJ-GP3表彰式 (優勝:伊藤元治、2位:古里太陽、3位:塚本武蔵)



HRC NSF250R Challenge表彰式 (優勝:古里太陽、2位:大窪証文、3位:濱田寛太)

**Voice
of
Pick up
Riders**
この日、キラリと光った
ライダーに一问一答
-SUNDAY EDITION-

この日、キラリと光ったライダーに一问一答
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

CBR250R Dream Cupエキスパートクラス優勝

神吉 圭史郎 選手(48歳)

(プリズムハウス&コーストワイズ&かおる! / Honda CBR250R)



Q.公式予選では上位4台までが1分06秒台をマーク。どんな予選でしたか?

A.実はこのCBRでコースを走るのは2回目、レースは初めてなんです。ドライでタイムが出ていなかったのがウェットの方が有利かなと考えていました。正直雨になって良かったです。

Q.ファイナルラップまで接戦が続いた決勝レースでポールtoウィンを飾りました。

A.若いライダーは元気が良いので、抜かれたらその都度すぐに抜き返そうと決めていました。ファイナルラップの1コーナーでイエローフラッグが出ていたのがラッキーでした。そうでなければあそこで前に行かれていたと思います。

Q.このカテゴリーは今年は残り2戦が鈴鹿サーキットで開催され、その後には全国大会もありますね。

A.僕がこのカテゴリーを走るのは今回が初めて最後かもしれません。なぜならこのCBRは息子のマシンだからです。息子が練習でタイムを出したらレースも息子が走るようになりますから、今日は勝てて良かったです。